



平戸城から望む平戸市街地



長崎県

HIRADO CITY

平戸市



(寄稿：平戸市)

平戸市の概要

平戸市は、長崎県の北西端に位置し、平戸島・生月島・大島・度島・高島の有人島及び九州本土北西部の田平町と周辺の島々で構成されています。古くから平戸では海外貿易が盛んに行われ、「西の都」と呼ばれるほどヨーロッパの国々の船が行き交う国際貿易港でした。平成30年7月には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産として、「平戸の聖地と集落」が世界文化遺産に登録されています。

まちづくりのテーマ

本市のまちづくりの総合的な指針として策定した「平戸市未来創造羅針盤（総合計画）」において、「夢あふれる 未来のまち 平戸」を未来像として掲げ、市民の誰もがずっと住みたいと思えるまちづくりを目指して各種施策に取り組んでいます。その中から、市の重要な産業である農林水産業と観光業の取り組みの一部を紹介します。



世界文化遺産構成資産・春日の棚田

農林水産業の取り組み

もうかる農林業を目指して

平戸市の農業は、水稻を中心に肉用牛、いちごやアスパラガスなどの施設野菜、馬鈴薯や玉葱などの露地野菜を組み合わせた複合経営が主となっています。しかし、農業者の高齢化及び担い手の減少が進んできていることから、産地の維持・拡大が課題となっています。

そこで、市では「平戸式もうかる農業実現支援事業」を創設し、他産業並みの農業所得が得られる「もうかる農業」の確立に向けた取

り組みを進めています。

その中で、担い手対策として、市と生産部会等の連携による就農希望者のための研修制度や支援制度を整備し、新規就農者の確保・育成に取り組んでいます。

具体的には、技術習得に向けた1年間の実践研修期間を対象とした「準備型」と、経営開始後を対象とした「経営開始型」を用意しています。「準備型」では、国庫事業である農業次世代人材投資事業の上乗せ補助として、年間90万円の補助を行っており、国の補助金と合わせると、最大240万円の補助を受けられる仕組みとなっています。市単独補助の場合は、年間120



いちご栽培



アスパラガス栽培



収穫された玉葱



園芸ハウス



平戸牛の放牧場

万円の補助を行っています。

また、「経営開始型」でも「準備型」と同額の補助を行っており、支援期間は、「準備型」が1年間、「経営開始型」は最長2年間となっています。

施設整備への補助では、園芸用ハウスや牛舎など就農に必要な施設の整備に対し、補助対象経費の80%を上限に補助を行っています。これらの支援により、経営開始時における負担軽減が図られ、就農し

やすい環境づくりに繋がったことから、本事業実施前と比較し、平均新規就農者数が増加するなど一定の効果が出てきています。

産地を支える担い手づくりは、産地の活性化を図っていくために必要不可欠な取り組みであり、今後とも生産部会と連携し、平戸式もうかる農業実現支援事業を活用した支援を進めることで、新規就農者の確保・育成に取り組んでいきます。

観光業の取り組み

平戸観光シンボルの リニューアル

平戸観光のシンボル、平戸城は2018年秋からの天守閣大規模改修を終え、2021年4月1日にリニューアルオープンしました。5階建ての天守閣は内部を一新し、最新のデジタルコンテンツを用いて歴史を楽しく学べるアミューズメント施設に生まれ変わりました。まず入館者を迎えるのは2階エントランスの大スクリーン。平戸の歴史を「四季」に見立て、美しいパノラマ映像で紹介しています。3階は平戸城の築城物語を中心に平戸の歴史を紹介するフロアになっています。特に2人の城主が語る平戸城築城の物語「ドラマティックシアター」は見ごたえたっぷり。臨場感あふれる演出で模型と映像で分かりやすく、歴史初心者にもオススメです。その他、平戸の歴史を一気

にめぐるヒストリー絵巻、築城体験ができるミニチュアの石垣パズルコーナーなどがあります。4階は体を使って楽しみながら歴史を体感できるアトラクションコーナーとなっています。おもちゃの刀を使った平戸歴史クイズ「刀でAnswer! 斬って答える平戸クイズ」や専用の筆を使って画面に文字を書く「デジタル書道体験」を設置しています。最上階からは平戸大橋、平戸瀬戸などの絶景が360度見渡せます。見奏櫓けんそうやぐらは航海時代のオランダの絵画などの展示のほか観光客がくつろぐスペースを設けています。昨年5月にはリニューアルオープン後の来場者が1万人を突破し、今も多くの観光客で賑わっています。



平戸城(左:天守閣、右:見奏櫓)



3階:「築城物語」を中心に、平戸の歴史を紹介するフロア



4階:身体を使って遊びながら歴史を体感できるアトラクションコーナー



2階:エントランスの大スクリーン



平戸城CASTLE STAY懐柔櫓



平戸島での乗馬体験

国内初「常設の城泊」

平戸城内にある懐柔櫓^{かいじゅう}を日本初の常設宿泊施設化し「平戸城CASTLE STAY 懐柔櫓」として開業しました。収蔵庫として使われていた同櫓を約120平方メートル、2階建ての宿泊施設に約1億2千万円掛け、改修しました。夕食・朝食は施設内の美しい壁画に囲まれた、ゆったりとしたリビングダイニングで堪能できます。また、海に面する3面ガラス張りのバスルームが特徴的で平戸瀬戸を一望

することができます。さらに、平戸島の自然を満喫しながらの乗馬体験、初代藩主の松浦鎮信^{まつら しのぶ}が興した武家茶道の一派「鎮信流^{ちんしん}」の茶道体験、和服の着付け、武士道体験、国指定重要無形民俗文化財「平戸神楽」の特別鑑賞など、平戸島が紡いできた歴史と文化を、五感で体感できる特別プログラムも用意しております。料金は1棟貸し（定員5人）で1泊60万円。昨年10月には第1号となる宿泊客がお客様気分を味わいました。

今後も、リニューアルした平戸城

平戸市へのアクセス



車でお越しの方

博多→唐津ルート

福岡都市高速→福岡前原有料道路→二丈浜玉道路→唐津道路→北波多IC→国道202号→右折し、県道297号へ(国道202号と県道297号との交差点は「平戸」「伊万里湾大橋」の表示あり)→伊万里湾大橋→国道204号→松浦バイパス→国道204号→平戸大橋

高速道路ルート

本州→(注 博多からは都市高速より)太宰府IC→鳥栖JCT→(長崎自動車道へ)→武雄JCT→(西九州自動車道へ)→佐々IC(終点)→佐々IC降りて直進(県道227号やや山道)→国道204号→平戸大橋

コロナ禍前の活気を まちに取り戻す

を中心として、観光誘客につなげていきたいと考えています。

観光業を主要な産業の一つとしている本市の経済は、宿泊施設や飲食店をはじめ、コロナ禍の影響を

多大に受けました。しかし一方で、ふるさと納税として継続して寄附いただいている「平戸ファン」の方々も多く、平戸産農林水産物に対する高い評価や、観光資源の新たな活用への期待はますます高まっていくものと考えています。本市が持つ魅力の数々をさらに磨き上げ、市内外の期待に応える「さすが！平戸」を目指していきます。